京葉銀行

京葉銀行
中間ディスクロージャー誌 2022

トップメッセージ

確かな“きずな”を、未来へ。

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
新型コロナウイルス感染症によりさまざまな影響を受けられている皆さまに心からお見舞い申し上げます。

低金利環境の長期化や少子高齢化・人口減少の進行、ライフスタイルの変化など、金融機関を取り巻く経営環境は大きく変化し、またそのスピードは一層増しています。

このような環境の中、当行は2021年4月にスタートした第19次中期経営計画の推進を通じて、地域社会の課題解決、お客さまの本業支援を一層強化するとともに、DXやサステナビリティへの取り組みを地域経済の成長機会と捉え、地域のお客さまとともに「成長の好循環」を目指してまいります。

なお、当行は2023年3月に創立80周年を迎えます。株主の皆さまをはじめとする関係各位の永年に亘るご支援、ご愛顧に感謝の意を表し、中間配当金につきましては、普通配当10円50銭に80周年記念配当50銭を加え、1株当たり11円とさせていただきました。

創立90年、100年の未来に向け、これからもすべてのステークホルダーの皆さまのご信頼とご期待にお応えできるよう、京葉銀行グループ役職員一同さらなる努力を重ねてまいりますので、変わらぬご支援のほど心よりお願い申し上げます。

2022年12月

取締役頭取 熊谷俊行

当行プロフィール（2022年9月30日現在）

名　　称	株式会社京葉銀行
英文名称	The Keiyo Bank,Ltd
設　　立	1943年3月31日
資 本 金	497億円
所 在 地	本店／千葉市中央区富士見1丁目11番11号 千葉みなと本部／千葉市中央区千葉港5番45号
従 業 員	1,994名
拠　　点	122ヵ店
格　　付	A−（S&Pグローバル・レーティング） A+（株式会社日本格付研究所）

Contents

01 トップメッセージ
02 第19次中期経営計画／業績ハイライト
03 中小企業の経営の改善および地域の活性化のための取り組みの状況に関する事項（地域密着型金融への取組み）
04 KEIYO TOPICS
05 創立80周年記念事業の展開
07 サステナビリティへの取り組み
08 地域経済・社会への取り組み
09 ダイバーシティ＆インクルージョン
10 環境保全への取り組み

第19次中期経営計画（2021年4月～2024年3月）

第19次中期経営計画　ACTION PLAN 2024 ～さらなる進化～

3つの基本戦略

基本戦略 ❶
課題解決型営業の強化
地域社会やお客さまの課題を発掘し、解決策の提示と実行支援に取り組む営業を強化します。

基本戦略 ❷
生産性の向上と人財の育成
デジタルを活用し、当行とお客さま双方の生産性向上を図るとともに、課題解決を行うための人財を育成します。

基本戦略 ❸
経営基盤の強化
リスクとコストを適切にコントロールすることで、経営基盤を強化し、地域とともに持続的な成長を目指します。

目標とする経営指標（2024年3月期）

親会社株主に帰属する当期純利益	自己資本比率（連結）	OHR（単体）
80億円	11%程度	60%台

業績ハイライト（2022年9月期）

財務ハイライト（単体）

預金残高	5兆2,571億円（前年同期比 2,458 億円増）	貸出金残高	3兆9,637億円（前年同期比 1,283 億円増）
経常利益	93億円（前年同期比 3 億円増）	中間純利益	65億円（前年同期比 2 億円増）
中小企業等向け貸出金残高	3兆1,936億円（前年同期比 711 億円増）	住宅ローン残高	1兆6,659億円（前年同期比 421 億円増）
自己資本比率	11.19%	OHR	64.18%

非財務ハイライト

ESG 関連投融資実績	1,158億円（2021年4月1日～2022年9月30日）	指導的地位に占める女性比率	係長以上の役付行員 28.6%（2022年9月30日現在）

中小企業の経営の改善および地域の活性化のための取り組みの状況に関する事項（地域密着型金融への取組み）

地域密着型金融に関する基本的な考え方

当行は、2021年4月にスタートした『第19次中期経営計画』において、基本戦略のひとつに「課題解決型営業の強化」を掲げ、当行グループ一体で、お客さまの課題を発掘し、解決策の提示と実行支援に取り組む営業に努めています。今後も、お客さまの経営課題の解決へ最適なソリューションを提供することで、地域経済の発展に積極的に貢献してまいります。

中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

お客さまのさまざまなニーズ・課題にお応えするため、営業店、本部、グループ会社、外部機関などと連携し、最適なソリューションを提供する態勢を整備しています。

「経営者保証に関するガイドライン」への対応

「経営者保証に関するガイドライン※」の趣旨を踏まえ、経営者の保証に依存しない融資を一層促進するとともに、既存の融資についても同ガイドラインで示された保証契約のあり方に基づく適切な対応に努めています。

■ **ガイドラインを踏まえた取組状況**

項目	2020/9	2021/9	2022/9
新規に無保証で融資した件数	2,750件	2,079件	2,296件
保証契約を変更・解除した件数	169件	186件	236件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	26.3%	35.7%	41.5%

■ **事業承継時におけるガイドラインへの取組状況**

項目	2020/9	2021/9	2022/9
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除し、かつ、新経営者との保証契約を締結しなかった割合	13.0%	13.0%	1.7%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除する一方、新経営者との保証契約を締結した割合	71.0%	64.3%	80.8%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約は解除しなかったが、新経営者との保証契約は締結しなかった割合	13.8%	20.1%	14.2%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除せず、かつ、新経営者との保証契約を締結した割合	2.2%	2.6%	3.3%

※「経営者保証に関するガイドライン」とは

中小企業・小規模事業者等の経営者による個人保証について、保証契約を締結する際や、金融機関等の債権者が保証履行を求める際における、中小企業・小規模事業者等、保証人、金融機関等の自主的なルールを定めたものです。

KEIYO TOPICS

「DX認定事業者」の認定を取得

2022年10月、経済産業省が定めるDX（デジタルトランスフォーメーション）認定制度に基づく「DX認定事業者」に認定されました。

本制度は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき、DX推進の準備が整っている事業者を経済産業省が認定する制度です。今回、当行が目指す経営ビジョン・戦略、推進体制等について、基準を満たしているとして認定を受けたものです。

株式会社りそなホールディングスとのバンキングアプリ開発に係る基本合意書の締結

当行とりそなHDは2021年8月、戦略的業務提携に関する協定を締結しており、その一環として2022年11月、「りそなグループアプリ」が展開するバンキング機能を当行のお客さま向けにサービス提供することを目指し、「開発着手にかかる基本合意書」を締結しました。今後、当行とりそなHDは、当行のお客さま向けに、優れたデザインやシンプルな操作性を有する「りそなグループアプリ」をベースとしたバンキングアプリの提供に向けた取り組みを進めてまいります。

ホームページのリニューアル

2022年10月、段階的に実施していたホームページのリニューアルが完了しました。コーポレートカラーを基調としたデザイン構成とパソコン、スマートフォン、タブレットなど各種端末からの閲覧時に、レイアウト表示を自動的に最適化するレスポンシブWebデザインの採用により、利便性・操作性が向上しました。今後もお客さまへのわかりやすい情報提供に努めてまいります。

来店予約サービスの全店拡大

2022年11月より、一部の店舗で実施しておりました「来店予約サービス」を全店に拡大しました。ご来店を希望されるお客さまがご自身のライフスタイルに合わせてスマートフォンやパソコン等から来店予約をすることで、待ち時間の短縮や店内の混雑緩和を図るとともに、お客さまに一層充実したコンサルティングを提供してまいります。

「CHIBA SDGs Parklet Project」を開催

食品ロスやフェアトレードをテーマとしたイベント「CHIBA SDGs Parklet Project」を2022年7月、10月に開催しました。

地域の課題解決や千葉駅前大通りの賑わいを取り戻すことを目指し、規格外野菜やフェアトレードに関する物品の販売のほか、キッチンカーを出店しました。さらには、日頃感じている地域の課題を気軽に投書いただける「目安箱」や家庭やオフィスで余っている食料品を募り寄付する「フードドライブ」の設置、千葉大学環境ISO学生委員会との連携による古着のリサイクル販売など、食品ロス問題に限らず広く地域の課題解決を図る取り組みを行いました。次回は2023年3月の開催を予定しています。

創立80周年記念事業の展開

80年の感謝を込めて

私たち京葉銀行は2023年3月31日、
おかげさまで創立80年を迎えます。
永きにわたるご愛顧に、心から感謝申し上げます。
役職員一同、創立90年、100年の未来に向け、
これからもプラスアルファを提供し続け、
地域の皆さまとともに歩んでまいります。

ロゴマーク、キャッチフレーズの制定

ロゴマークは、地域の人々との絆や繋がりを多角的な輝きの結晶で表現し、SDGsへの取り組みを意識した配色とコーポレートカラーであるロイヤルブルーを使用しています。キャッチフレーズには、80年のこれまでの感謝の気持ちとこれからも地域の皆さまとともに歩んでいきたいという想いを込めています。

各種施策（実施予定のものを含みます）

■ お客さま向け施策

▶各種キャンペーンの実施

〈年末ジャンボ宝くじ付定期預金〉

大変ご好評いただいている宝くじ付定期預金を、お客さまに幅広くご利用いただけるよう、募集枠を追加しました。

〈環境配慮型住宅ローン金利優遇キャンペーン〉

環境配慮型の住宅を購入・建築し、住宅ローンをお借り入れいただくお客さまは、キャンペーン金利でご利用いただけます。

その他、当行を支えて下さった皆さまへ感謝を込め、各種キャンペーンを実施していく予定です。

■ 地域の皆さま向け施策

▶ショーウィンドーギャラリーでの展示

本店および千葉みなと本部に設置するショーウィンドーギャラリーにて千葉県の観光スポットをご紹介しています。地域の皆さまが、改めて足を運びたくなるような、千葉県のあふれる魅力をお楽しみください。

▶デジタルスタンプラリーの実施

千葉県内の飲食店や観光施設、宿泊施設などを巡りながらスタンプを取得していくオープン参加型のイベントを予定しております。参加店のQRコードを読み取ってスタンプを集めると素敵な賞品がもらえます。

■ 地域の子供たち向け施策

▶こどもエコまつり開催

当行は千葉大学環境ISO学生委員会と協同で千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクトを行っており、2022年10月に地域のこどもたちを対象に「こどもエコまつり」を開催しました。ゲームや工作でSDGsを学ぶブースのほか、千葉ジェッツユースチームが協力するミニゲームも実施され、多くの親子連れでにぎわいました。

▶金融経済教育の実施

2022年10月に学校法人市川学園にて、学生たちの金融リテラシー向上に加え、地域金融機関としてお客さま、地域の皆さまの未来に向けて果たすべき社会的役割について理解を深めていただくことを目指し、頭取が講演を行いました。

▶野球教室の開催

「地域社会への貢献」ならびに「次世代への育成支援」を目的に、将来の地域社会を担う子供たちの成長を後押しするため、当行野球部員が野球教室を開催する予定です。

■ 株主さま向け施策

▶株主優待制度の拡充

株主の皆さまへ日頃のご愛顧に感謝し、幅広く株主優待をご利用いただけますよう、2022年12月より優待制度を拡充しました。「金利優遇コース」に加え、今回新たに個人株主の皆さまにWebにてお申し込みいただく「宝くじコース」をご用意し、店頭へのご来店が難しい株主さまがご利用いただけるようにしました。

▶記念配当の実施

2023年3月期中間および期末配当で、それぞれ1株あたり50銭、年間1円の記念配当を実施します。

サステナビリティへの取り組み

京葉銀行グループは、「京葉銀行グループサステナビリティ方針」に基づき、持続可能な社会の実現と当行グループの企業価値向上の両立を目指し、サステナビリティを巡る課題への取り組みを行ってまいります。

サステナビリティ方針

京葉銀行グループは、金融仲介機能の発揮とお客さま本位の良質なサービスの提供等を通じて、気候変動等の環境問題をはじめとするさまざまな社会的課題の解決に取り組み、地域経済の発展と当行グループの企業価値向上の好循環サイクルを創出し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■サステナビリティ方針

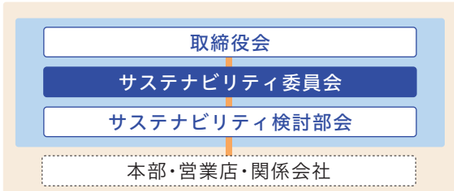
◆ 取組み方針 ◆
- 行動規範
- 環境方針
- 人権方針
- 投融資方針

◆ 重点項目 ◆

SDGs宣言
- ❶地域経済・社会
- ❷ダイバーシティ&インクルージョン
- ❸環境保全

サステナビリティ推進体制

頭取を委員長とした「サステナビリティ委員会」を設置し、サステナビリティ向上に資する取り組みの進捗を一元的に管理するとともに、取締役会の監督を受ける体制としています。
併せて、下部組織として「サステナビリティ検討部会」を設置し、サステナビリティを巡る課題への具体的な対応について、組織横断的に検討する体制としています。



SDGsの取り組み

重点項目	対応する主な目標	取組内容	参照頁
地域経済・社会	お客さまや地域の課題解決を支援することで、地域経済の発展に貢献してまいります。	●「SDGs寄付型私募債」を通じた寄付 ●サステナブル・ファイナンスの取り組み ●地方創生「体験型」視察研修を実施 ●当行カレンダーへ千葉県出身の若手有望画家を採用	P.8
ダイバーシティ&インクルージョン	個人の多様性を尊重し、誰もが仕事や生活を充実させ、自分らしく活躍できる社会づくりに貢献してまいります。	●男性の育児休業取得の促進 ●副業・兼業制度 ●多様な人材が活躍できる環境整備	P.9
環境保全	社会全体の環境負荷低減と環境保全に取り組み、低炭素・循環型社会の実現を目指してまいります。	●有機農業セミナーの開催 ●千葉大学×京葉銀行 ecoプロジェクト （古着市の実施、農業体験プロジェクトの実施）	P.10

地域経済・社会への取り組み

「SDGs寄付型私募債」を通じた寄付

当行が私募債の発行企業さまから受け取る手数料の一部を拠出し、医療・教育・地方公共団体等に寄付を行うもので、発行企業さまが寄付先を指定することができます。2022年度上期は累計発行企業数40社、寄付額600万円となりました。
（取扱開始以来累計:発行企業数221社、寄付額3,228万円）

右より、千葉県 健康福祉部長　　高梨 みちえ
弊行 執行役員法人営業部長　吉田 稔

サステナブル・ファイナンスの取り組み

「京葉銀行グループサステナビリティ方針」を制定し、2021年度から2030年度までの10年間にESG関連投融資実行目標7,000億円を掲げるなど、サステナビリティを巡る課題への取り組みを強化・促進しております。
「αサステナビリティ・リンク・ローン」、「αグリーンローン」、「SDGsローン」、「SDGs寄付型私募債」などの主要商品に加え、2022年7月に、社会的改善効果をもたらす設備投資を資金使途とする「αソーシャルローン」の取り扱いを開始するなど、サステナブル・ファイナンス商品のラインナップを拡充しています。

地方創生「体験型」視察研修を実施

2022年11月、当行が歴史的な観光資源を活用した地域振興に継続的に取り組む香取市佐原地区において、若手行員向けに地方創生を肌で感じることができる「体験型」視察研修を行いました。研修では、当行が佐原信用金庫とともに出資する観光まちづくり会社である株式会社NIPPONIA SAWARAの職員を講師に迎え、地域金融機関として地方創生に取り組む意義を講義形式で学んだほか、グループワークや佐原の町並み散策を通して、佐原の魅力を再認識しました。

当行カレンダーへ千葉県出身の若手有望画家を採用

1974年のカレンダーより、千葉県にゆかりの深い有名画家の作品をご紹介しており、2005年からは、今後ますます活躍が期待される若手画家をご紹介しています。2023年は、千葉市在住の日本画家、本多 翔氏が描いた千葉県内の風景画を採用しています。

ダイバーシティ＆インクルージョン

男性の育児休業取得の促進

2022年4月、段階的に実施される育児・介護休業法の法改正に先駆け、育児休業の分割取得、出生時育児休業の取得を可能としました。また、雇用環境整備の一環として、制度改定のみならず、「2023年度男性育児休業取得率100%」の数値目標を掲げました。

■ 育児休業取得者の声

会社の上司、仲間、妻と娘に改めて感謝

2021年に1度目の育児休業を取得し、今年2度目の育児休業を取得しました。普段は仕事や当行野球部の練習で子供との時間をあまり作れないため、あっと言う間に成長していく我が子との時間を共に過ごせたことは本当に幸せだと感じました。この制度を勧めてくださった上司や「安心して休んでね」と言ってくれた会社の仲間には感謝しかありません。育児を通して自分自身も成長させてもらっていることを実感すると共に、日々献身的に家事や育児に努めてくれている妻に改めて感謝する休業期間でした。

（融資部融資企画グループ 課長代理 長谷川 直史）

副業・兼業制度

2021年4月より「副業・兼業」を解禁しました。副業・兼業を行うことで、地域貢献につながる人脈づくりや新たなスキルの獲得により外部に通じる専門性を高め、ひいてはプラスアルファの付加価値を提供できる人材育成につながるなど、人材価値の最大化を狙いとしています。また、2022年10月からは、現在の業務を継続しながら行内他部署の業務・プロジェクトに参画する「社内副業制度」を開始し、幅広いフィールドの中で、やりたい業務・プロジェクトに参画出来る機会を拡充し、行員のやりがい形成や成長を図っています。

多様な人材が活躍できる環境整備

■ シニアスタッフ行員制度

2018年7月よりシニアスタッフ行員制度を導入しており、働く意欲のある行員を70歳まで継続雇用しています。培った知識や経験を活かし、後輩のよき手本となる指導者や金融市場における専門家として、2022年11月現在、94名が活躍しています。

■ 正行員登用制度

職務遂行能力が高く、仕事に意欲的に取り組むパートタイマーの中から正行員登用を実施しています。より一層のレベルアップ、モチベーションアップを図っており、2022年11月現在、17名の方が制度を利用し正行員として働いています。

■ Thanksカードの活用

行員同士でのコミュニケーション強化・個々のモチベーション向上のため、お互いを認め合い、誰もが働きやすくなるよう、褒める文化の構築を目指し、Thanksカードを活用しています。

環境保全への取り組み

有機農業セミナーの開催

2022年6月に有機農業セミナーおよび商談会、9月にはオーガニックセミナーおよび交流会を開催しました。SDGsや環境を重視する国内外の動き、さらには農業の環境負荷低減を目指す「みどりの食糧システム戦略」を推進する新法成立などにより有機農業が注目されていることを受け、セミナーを通して有機農業の魅力や、生産・流通における現状と今後の見通しなどの理解を深めていただくとともに、商談会・交流会では参加者同士の販路拡大の機会を提供しました。

〈セミナーの様子〉

〈商談会・交流会の様子〉

千葉大学×京葉銀行 ecoプロジェクト

千葉大学環境ISO学生委員会と当行は、2017年度より「ecoプロジェクト～7色の虹を千葉から未来へ」を実施しています。SDGsの達成に向けて「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という想いで、千葉県内の多くの皆さまを対象に、環境啓発活動を実践しています。

古着市の実施

2022年10月、古着販売イベントをZOZOの広場にて開催しました。当行の行員と千葉大学の学生・教職員から不用になった衣類を回収し、学生が検品・仕分けしたものを、地域の方向けに販売し、リサイクル・リユースすることにより環境負荷削減に繋げました。なお、売上については千葉県と千葉大学医学部付属病院に寄付しました。

農業体験プロジェクトの実施

2022年10月、当行取引先の農園で千葉大学の学生が農業体験を実施しました。若者の農業への興味関心を深める取り組みで、学生からは「実際に農業に触れて知ることでより身近に感じるようになった」、との声がありました。

京葉銀行のコミュニケーションシンボル

「α」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、
人と人との“きずな”と、
そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。
コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、
“人とのきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”
“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

確かな“きずな”を、未来へ。

「京葉銀行 中間ディスクロージャー誌 2022」

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務および財産の状況に関する説明書類）です。

2022年12月発行
発行：株式会社 京葉銀行　経営企画部
〒260-0026　千葉市中央区千葉港5-45
TEL.043（306）2121
https://www.keiyobank.co.jp/

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C022784
www.fsc.org

※PDF版は認証紙に印刷された認証印刷物データを使用して作成しています。

VEGETABLE OIL INK
この印刷物には、環境に配慮した植物油インクを使用しています。

〈別冊のご案内〉

銀行法施行規則第19条の2および第19条の3、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則第6条に基づく開示事項に関して別冊を作成しています。
別冊は京葉銀行ホームページに掲載しています。

別冊
「京葉銀行
中間ディスクロージャー誌 2022」
資料編